

研究の視点 R1

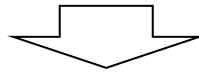
題材名（正確な大体～長さ編～）

研究の視点 何ができるようになるか

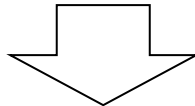
高等部における 育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力 ＜学びを深める＞	学びに向かう力・人間性等 ＜自己効力感・有用感を育む＞
	各教科等の知識・技能 数学科	自分の思いや考えを表現し、 分かりやすく伝える力	目標を意識して自分を伸ばそうとする力
		他者の思いや考えを聞き、適切 に対応する力	自分の責任を果たそうとする力
		集団の中で考えを修正したり 深めたりする力	集団の中で状況を理解して取り組もうとする力

関連する 個別の指導計画 の目標	C 女	I 男	G 女
	・効率的な作業手順を覚えて、 担当作業に正確、丁寧に取り 組む。	・時間や効率を意識して活動に 取り組む。	・作業手順を覚えて、作業を効 率よく正確に進めることが できる。

題材の目標 (各授業の中心的課題)	自分の体の部位を基準にして大体の長さを捉えることができる。
----------------------	-------------------------------



「育成を目指す資 質能力の三つの 柱」の観点で分析	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性 主体的に学習に取り組む態度
	・体の部位の基準を使うこと で大体で予測した物の長さ と、実際の長さの誤差を小 さくすることができる。	・大体の物の長さを予測しよ うとするときに、その長さ に合った体の部位の基準を 基に考えることができる。	・目標を達成するために、これま で学習したことや友達の見 意見を積極的に活かそうとす ることができる。



題材の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・体の部位の基準を使って該当する物の長さを予測し、設定した誤差の範囲内で長さを表すことができる。 (知・技) ・長さを予測するときに、体のどの部位を基準として使うのが適切か判断できる。 (思・判・表) ・学習したことや友達の工夫しているところを取り入れて、測定の学習に活かすことができる。 (主体的に学習に取り組む態度) 		
	C 女	I 男	G 女
個別の評価規準 (個の目標)	・「ちょっと」の長さを「ちよ つとスケール」を使って割り出 すことができる。 (主体的に学習に取り組む態度)	・対象物が体の基準よりも長い か短いかを正しく判断し、長 さを予測することができる。 (知・技)	・体のどの部位を基準として使 うのか適切に判断できる。 (思・判・表)

研究の視点 何を学ぶか

学習指導要領での位置づけ	中学部 数学科 1段階 C 測定 ア (ア) ㊦長さ、重さ及びかさについて、およその見当を付け、単位を選択したり、計器を用いて測定したりすること。 (イ) ㊦身の回りのものの特徴に着目し、目的に適した単位での量の大きさを表現したり、比べたりすること。			
年間指導計画での位置づけ	はかり取り 長さの読み取りとはかり取り			
学習指導計画	第1次 体の部位の長さを測ろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・2時間 第2次 体の部位を基準にして大体の長さを測ろう・・・・・・・・・・3時間 第3次 身近な物や人の大きさを捉えよう・・・・・・・・・・2時間 (2/3時間)			
単元についての評価	指導内容	適切	指導形態	適切
	実施時期	他の授業場面や作業、実習等に活用することを見据えると、前期中に実施する方が良い。	時数	適切
単元についての改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後は他の教科・領域との関連付けをより明確にした方が良い。他教科でも長さに関する内容を少しでも取り入れていくことで学習の頻度は多くなり、長さの感覚を養うための経験を積んでいくことができる。 ・ 今回の単元の内容を発展させる内容として、目視で長さを予測する活動を増やし、予測の精度を上げていけるようにする。また少し離れた距離から目視で予測する活動も取り入れることができるようにする。 ・ 基準となるものを使って予測や実測をする経験を重ねていくために小学部段階から長さや重さに関わりをもつことが重要であり、各学部で学習場面を設けるのではなく、学校全体として子どもたちが長さに関われる環境設定をしてはどうか。例えば、各学部にはそれぞれの発達段階に応じた長さに関する掲示をして目にして考える機会を作っておき、全体の共有スペースにはそれぞれの学部で取り組んでいる内容が分かるものを掲示しておくことで小・中学部の子どもたちは自分たちが学んでいることがどう発展していくか見通しももてるはずである。 			

研究の視点 どのように学ぶか（主体的な学び・対話的な学び・深い学び）

学習活動	活動機会・支援環境・授業展開	
<p>1 前時の振り返りをし、本時で行うことを確認する</p>	<p>・ 前時の授業で行ったことと、本時に行うことを確認できるようにするために、プレゼンテーションソフトで提示する。</p> <p>生徒が今回の学習の意義を理解して取り組むことができるために、誤差が少ないように測ることが目的ではなく、頭の中で基準をイメージして大体の長さの見当付けがより正確になるようにすることが目的であることを、プレゼンテーションソフトで提示することで分かりやすく伝えるようにした。</p>	 <p><プレゼンテーションソフトで提示するスライド></p>
<p>2 体の部位の基準を使っての測定 (1)紙テープの長さを測る</p>  <p>(2) 具体物の長さを測る</p>   <p>3 振り返りをする</p> 	<p>・ 体の基準からはみ出た部分を感覚で捉えにくい生徒には、「ちょっとスケール」（10cmの厚紙）を用意し、はみ出た部分に当て、見当付けるようにする。</p> <p>始めは体の部位の基準だけを使って予測していたが、体の部位の基準だけでは測り切れない 10cm程度の長さの部分を予測することに苦戦する生徒が多かった。体の基準だけでは測り切れない部分に、目盛りをつけていない 10cmの厚紙をあて、厚紙のどの位置にあるかで長さを予測するようにすることで、10cm以内での長さの感覚を養うことができるようにした。</p> <p>・ 興味をもって取り組めるようにいろいろな種類の実物を用意する。その問題の一つに参観者に参加してもらう。</p> <p>生徒が測る実物は、普段生徒がよく目にしているものであることや、様々な体の部位の基準を使って長さを予測できることなどを条件に選ぶこととした。また、自分の身長を基準にして参観者の身長を予測する活動を取り入れることで、相手の身体的特徴が伝えられるようになるなど、今後の生活に活かしやすい長さ（高さ）の感覚を養うことができるようにした。</p> <p>・ 良いやり方をした生徒（問題用紙にシールを貼られた生徒）にもう一度測定してもらい、他の生徒が確認できるようにする。</p> <p>改善前の振り返りの活動では、合格ライン内で合格した数を確認することが中心であった。学習したことや友達の工夫しているところを取り入れて、測定の学習に活かすことができるようにするために、体の部位の基準を組み合わせるなど、工夫をして長さを予測していた生徒のやり方を他の生徒の前で見せ、確認できるようにした。</p>	 <p><ちょっとスケール></p>  <p><良いやり方をしたときに問題用紙に貼られるシール></p>